

■祓いの儀式に向くアイテムの条件

最初のパートでは儀式を行うのに向いている刃物の条件から教えていこう。
これは重要な要素になるから少し長くなるぞ。

まずは使用する刃物に関してだが、実際に物が切れる、鋭い切れ味を持つ物が望ましい。
例えば日本刀や短刀だな。

実際に物を斬ることが出来るこれらのアイテムは儀式に向いている。

とは言え日本刀を手にするのは現実的ではないから、サバイバルナイフなどのナイフ類や料理で使う包丁、薪を割るための剣鉈などを用意するのが現実的だろう。

一番大事なのは刃がしっかりと切れる事と切っ先が鋭く尖っている事だな。
この2点は儀式を行う上で大きな力となる要素だ。

刃の切れ味が良いと儀式で切り裂く行為が行いやすくなるし、切っ先が鋭く作られていることで意識が集中しやすくなる。

一般的なナイフであれば刃も切っ先も理想的な形をしているが、普通の鉈などは四角い形をしていて切っ先が鋭くないので儀式として集中しにくい。
それならば剣鉈のように切っ先が剣の形をしている物を選ぶ方が好ましい。

刃の切れ味と切っ先の鋭さ。
まずはこの2点を意識して選ぶといいだろう。

次は素材について。

刃の成分は昔ながらの鋼でもステンレスのような現代的な合金でも構わない。

あえて言うなら鋼の方が切れ味や粘りなど幾つかの点で理想的だが、手入れが手間で錆びやすい欠点がある。

その点ステンレス系の金属は錆びにくく扱いも楽だ。

西洋ナイフは全般的に錆びにくくメンテナンスしやすい素材のものが多いので現代的にはお勧めだな。

次は刃の厚みについて。

刃の厚みはそれなりにあった方が無難だな。

いくら切れ味が良くてカッターナイフのようにペラペラの刃では効果は今ひとつだ。

鉈のように分厚くなれとは言わないうが、通常のナイフくらいの厚みは欲しいところだな。

次に刃の色や仕上げだが、これは磨き込まれた鏡面仕上げをしている物がいいだろう。

わかりやすい例で言えばオーソドックスな西洋ナイフや日本刀だな。

ああいった美しい仕上げは儀式を行う媒体として向いているし、顔が映り込むほどの仕上げであれば、魔を跳ね返す「鏡」の役割も期待できる。

それに対して刃が黒で塗装されたり艶消し処理がされているコンバットナイフなどは儀式には向いてない。

ああいった物は戦闘向けの仕上げだからな。

悪くはないが「鏡」の効果は期待できないだろう。

それと刀身にメーカー^{とうしん}ロゴが大きく刻印されている物は避けた方がいい。

ああいった代物はメーカーの色が強くなりすぎて儀式には向かない。

刀身に邪魔な刻印や無駄なデザインが入っていないプレーンな物を選ぶといいだろう。

次は柄^{つか}に関して。

儀式を行う関係上、握る部分の柄^{つか}は木製^{もくせい}で出来ている事が望ましい。

可能であれば高品質な木材が好ましいが、圧着素材のように幾つかの木材をはり合わせた物でも構わない。

木製の物が見つからない場合は金属製でもOKだ。

これらの素材は人の意思や念を通しやすいからな。

逆にプラスチックのような科学的に作られた素材は、人の念が通りにくいので避けたほうがいいだろう。

次は風格や値段やエピソードに関して。

こうした儀式アイテムは使う側がその気になるのも重要だ。

例えは100均ショップで買ったカッターナイフと20万円で買ったナイフであれば、20万のナイフの方が風格があり、その気になるだろうし、100均のカッターはみすぼらしく感じるだろう。

しかしそれに対して自分なりのエピソードがあるなら話は別だ。

例えそのナイフが安価な物でも、そのナイフに一目惚れをしたなら、お前にとっては至上の一品になるだろうし。

幼い頃の大切な思い出が詰まった品。

大切な人から貰ったプレゼント。

手作りの品なら何百万の刃物よりも価値が高い物となる。

デザイン、値段、素材、そしてエピソード…。

どれだけ気持ちをこめられるか、その気になれるかも重要な要素だな。

こうした条件も加味して得物を選んでいくといいだろう。

次は用途に関して。

使うアイテムは儀式専用にするか、もしくは実際に使用する物のどちらかにするといいだろう。

前者の場合は刃物を儀式専用にして他ごとをさせないことで用途を特化させて力を集中させる意味がある。

後者はハンティングでの獲物の解体やキャンプでの使用、調理目的の使用など、肌身離さず日常的に使用する事でシンクロ性を高めて力を強める効果がある。

どちらにするかはお前が選ぶといいだろう。

これらの要素を加味して、どういった刃物が魔除けや祓いに向いているかを考えいくぞ。

まずは日本刀。

これは作りや風格、切れ味ともに最高だな。

儀式アイテムとしてほぼ満点だが、価格が高く、扱いや管理も難しく現実的でないのが弱点だ。

次は和製の刃物全般に関して。

和製の刃物は儀式に向いている物が多い。

少し高価になるが任侠ものの映画に出てくる短刀なども儀式には向いているし、工作などで使用される小刀も悪く無い。

安価なものであれば「肥後の守」のような和製ナイフも使い勝手がいいな。

物によっては西洋ナイフより価格が高めなのは難点だが全般的に儀式に向いた物が多いカテゴリと言えるだろう。

次に西洋ナイフ。

和製の刃物に比べて扱いが楽でメンテナンスがしやすく、それなりに安価でありながら良い品も多い。

個人的にはお勧めできるカテゴリだ。

注意点をあげるとするなら艶消し処理や黒で塗装されたコンバットナイフではなく、昔ながらのオーソドックスな銀色のナイフを選ぶ方が儀式には向いているだろう。

次は包丁に関して。

包丁は調理に特化している存在のため、なかなかどうして悪くない。

刃は切れるし日常的に使用している分「物を切る」と言う意識や念が強まっているからな。

調理中に悪い物を切り裂き浄化すると意識しながら食材を切るだけで、料理に浄化の加護がかかるだろう。

おすすめとしては切っ先が鋭い出刃包丁や刺身包丁などがいいな。

次は刃がない模造刀に関して。

刃がない模造刀は切れ味の面では微妙だが「精巧な作りでできた金属製の剣」という概念はそれ自体が強いからな。

ナイフほどでは無いが、悪くない選択だろう。

次は木刀だが。

木刀は形も悪くないし、木で出来ているので意識や念を通しやすいのが長所だ。

短所としては鋭い刃がついていないため意識を集中させるのにエネルギーを使う所だな。

睡蓮のように樹齢の長い強力な靈木^{れいぼく}で作られた木刀を持つなら話は別だが、現実的にはなかなかそうもいかない。

最初のうちは木刀では意識が集中させにくいので避けるのが無難だろう。

次にペーパーナイフ。

切っ先が鋭い物であれば儀式としてある程度は使えるが、刃に切れ味がないのが弱点だ。

次にカッターナイフやハサミなどの文房具。

カッターナイフは切っ先も鋭く、刃も切れ味があるので悪くないが、刃が薄くペラペラなのが短所であり、文房具なので風格もイマイチだ。

ハサミも同様に文房具としての気を纏っているので扱いにくいし、形も儀式向きではない。

最後はプラスチック製のおもちゃナイフ。

これは論外だ。

素材も悪いし切れ味も無いから儀式に向いていない。

と、このような具合に各種要素を考慮して、自分に最適な刃物を選んでいくといいだろう。

儀式用のアイテムは自分が納得できることが重要だからな。

しっかりと検討して至高の一品を選んで欲しい。